

生まれ育った村で 地域おこし協力隊として 恩返し



福田 雅 (ふくだ みやび)

2002年生まれ。北海道赤井川村出身。高校卒業後、小樽・札幌市で過ごし、2024年11月より赤井川村地域おこし協力隊に着任。子どもの居場所づくりを行う。

【生まれ育った赤井川村】

北海道後志管内にある赤井川村は、人口約1,200人の小さな村です。山々に囲まれ、四季の自然を身近に感じながら暮らすことができるこの場所で、私は生まれ育ちました。子どものころは、放課後になると友達と外へ出て遊び、冬にはそり遊びやスキーを楽しむ、そんな日々を過ごしていました。地域の大人たちに見守られながら成長できる環境は、今振り返るととても恵まれていたと感じます。

【村を離れて気づいたこと】

この村には高校がないため、「社会人になったら村の外で働く」という選択をする人が多く、私自身も高校卒業後は村を離れて生活していました。しかし、外で暮らすなかで、自然の近さや人との距離の近さなど、この村ならではの良さに改めて気づくようになりました。そして、「やっぱり自分はこの村が好きだ」とい

う思いとともに、これまで自分を育ててくれた地域に何か恩返しができたらという気持ちが、次第に強くなっていきました。

【地域おこし協力隊との出会い】

そんなときに出会ったのが、地域おこし協力隊の制度でした。以前から耳にしたことはあったものの、地元出身でも活動できるとは知らず、当初は自分には関係のないものだと思っていました。しかし、子どもに関わる仕事ができると知り、もともと関心のあった分野であったことから、「この場所で、この仕事がしたい」と強く思うようになりました。調べていくなかでUターンでも活動できると知り、応募を決めました。

【地域おこし協力隊としての活動】

私は現在、赤井川村の地域おこし協力隊として、「子どもの居場所づくり」に取り組んでいます。2026年4月に子ども第三の居場所「むらっこはうす」が開設され、現在はそのスタッフとして、村の小中学生と日々関わりながら過ごしています。



自然いっぱいの赤井川村



子ども第三の居場所「むらっこはうす」

子ども第三の居場所とは、家庭や学校とは異なる、もう一つの家のような場所として、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる居場所です。

「むらっこはうす」では、“みんなでつくるひとりひとりの秘密基地”をコンセプトに、子どもたち一人ひとりが自分の居場所だと感じられる空間づくりを大切にしています。

開設に向けては、ほかの地域の居場所の視察や実地研修への参加、村内の保育所や小学校、放課後子ども教室での活動を通して、子どもたちとの関わりを深めてきました。また、雪遊びイベントや、普段あまり利用する機会の少ない公共交通機関を使ったむらバス遠足、サッカー教室などの企画を行うとともに、地域のイベントにも参加し、地元の方々との交流も重ねてきました。

「むらっこはうす」では、子どもたちが自分で考え、決めることも大切にしています。開設して間もないなかでも、その思いは少しずつ子どもたちに伝わり始めています。やりたいことを自主的に発言して、どうしたらできるか、何が必要かを考える姿や、片付けのルールについて気づいたことをみんなの前で発表する姿も見つけられるようになってきました。こうした積み重ねのなかで、“みんなでつくるひとりひとりの秘密基地”が少しずつ形になってきていると感じています。

【この村だからできる関わり】

子どもたちと日々関わるなかで感じるのは、一人ひとりの個性やペースの違いです。だからこそ、その子の気持ちを否定せず、焦らずに関わることを大切にしています。

赤井川村の子どもたちは、自然のなかで思いきり遊ぶことができ、人との距離が近く、世代を越えて見守られる環境のなかで育っています。一方で、小さな村だからこそ、同級生の数が少ないことや、経験の機会が限られるといった側面もあります。

私自身、この村で子ども時代を過ごしたからこそ、子どもたちの気持ちに寄り添える部分があると感じています。家族や先生とは少し違う立場で、子どもたちが安心して過ごせる時間や場所をつくっていきたくと考えています。

また、地域の方々に声をかけていただいたり、活動を応援していただいたりするなかで、人と人とのつながりの温かさを日々感じています。

【これから】

これからも地域の皆さんと関わりながら、子どもたちが安心して過ごせるだけでなく、「いろいろなことをやってみよう」と思えるような居場所づくりに取り組んでいきたいと思っています。そしていつか子どもたちが大人になったとき、「赤井川村で育ってよかった」と思えるような時間を、この村のなかで共につくっていきたくと考えています。



公共交通機関を使った遠足イベント開催